園長先生の子育てひろば

令和３年１２月

サンタの謎解き

園長　山中　文

きょう、本園の年長さんと年中さんの各クラスに１通ずつ、サンタさんからのお手紙が届きました（年少さんは別の形でサンタさんから連絡があります）。

年長クラスの様子をそっとのぞきました。担任教師が読み上げたところ、どうやら、クラスの部屋の中の、「みんなの名前が書かれているもの」のどれかに、サンタさんからみなへのメッセージが置いてあるらしいのです。それからクラスは大騒ぎ。謎解きのはじまりです。群れになって、ロッカーを見に行ったり、それぞれのなわとびを仕舞っているケースの裏側をのぞいたり、タオル掛けのみなのタオルをパタパタさせたりと、大忙しでした。

こういう時の子どもたちの集中力と協力はすごいですね。お手紙の内容は目をキラキラさせて聞き、「ロッカーじゃないか」「タオルも名前が書いてあるぞ」とお互いの情報共有もなかなかのものです。

こうしてとうとう見つけたのが、各自１枚のカードでした。１面に数字が、もう片面にひらがなが１文字書かれています。「これは、なんだ？」。

また謎解きです。

「『お』って書いているから、おまんじゅうじゃないか？」

「『だ』だから、だいふくだよ、きっと」

それぞれに、自分のカードのひらがなを見ては首をかしげます。

そのうち、数字を気にする子どもが出てきました。そして、みんなのカードをあわせて、数字の順に並べることに思い当たりました。

たとえば、あるクラスで並べてみると、こんな文章になりました。

「てをあらうところのうえでせんせいのものがあるとびら」

文章がわかったところで、また大騒ぎです。みなで急いでとびらをあけ、ようやく見つけました。サンタクロースからそれぞれの子どもへのクリスマスソックス型のカードです。

さあ、クリスマス会には、サンタさん来てくれるのでしょうか？

こうやって、本園の子どもたちは、楽しみにクリスマス会を待ちます。

謎解きは意欲的な思考や行為を生みます。楽しそうなものに向かって行く時はなおさらです。

このような「わくわく」は非認知能力にもかかわって大事なことですが、何より、子どもも仕掛けた大人も楽しいことです。ぜひご家庭でも、親子でいろいろな「わくわく」を創ってみてください！